

在留邦人向け 安全の手引き

平成26年2月1日

在アイスランド日本国大使館

平成18年11月1日
平成20年4月1日
平成20年12月1日
平成21年9月1日
平成22年4月1日

平成23年 4月1日
平成24年 4月1日
平成25年 4月1日
平成26年 2月1日

I 序言

在留邦人の皆様が、アイスランドで安全に日常生活を送るための参考として、また、様々な緊急事態の発生を想定し、的確かつ迅速に対応するための心構えとして、この手引きを作成しました。

II 防犯の手引き

1 防犯の基本的な心構え

身の上に災難が降りかかったとき、「もっと注意しておけばよかった！」と悔やんだ経験をお持ちの方は多いのではないのでしょうか。特に海外で生活する場合、自らの「安全」を意識することは、非常に重要なこととなります。

幸いにもアイスランドでは、凶悪事件の発生も少なく、他のヨーロッパ諸国に比べて比較的良好な治安が保たれています。しかし、最近では、首相府付近での爆発騒動、麻薬に絡む強盗や暴行事件、海外の犯罪組織と連携した脅迫、若年者への性犯罪などが発生しています。

海外では、日本とは異なり、「何かあれば警察が助けてくれる」という常識は通用せず、むしろ「本人とその家族の安全は、自分たち自身で責任を負わなければならない」と考えることが基本になります。そして、日頃からお互いに助け合える隣近所との協力関係を築き上げておくことも大切です。

アイスランドでも、これまで、日本人の旅行者がパスポートや現金を盗まれたり、在住する日本人でも、車上狙いや空き巣による被害を受けた前例があります。アイスランド社会における治安の現状が、変貌しつつある傾向を意識する必要があるようです。盗難の場合、現金被害のほかに、パスポートの紛失が心配されます。パスポートの盗難は、紛失した本人が気づかないうちに偽造又は変造され、より深刻な犯罪に使われる危険性がありますので、細心の注意が必要です。

◎ 海外で安全に暮らすための3か条

- ◆ 用心を怠らない
- ◆ 行動を予知されない
- ◆ 目立たない

2 当地における最近の犯罪発生状況

当国の治安は、他の欧州諸国に比べ一般的に良好であるといわれていますが、下記の表でも分かるように、ここ数年、犯罪発生件数の合計は減少傾向にあるものの、依然数値が一定あるいは増加している項目がみられます。特に過去3年間で、強盗と麻薬犯罪が増加しており、強姦や暴行も減少傾向とは言えません。最近では違法薬物の影響を受けた状態での自動車等の運転や酒に酔った上での女性に対する暴行事件の発生が多く報道されており、特に首都繁華街では、週末の夜に暴行事件が多く発生する傾向にあります。また、治安のよいと思われるアイスランドでも、殺人

事件が発生していることに着目する必要があります。治安当局としては、各国警察との情報共有、警察官の巡回、繁華街への防犯カメラ設置など、国内外での情報入手を綿密に行うことで、治安の維持と犯罪防止に努力しています。

参考：アイスランドにおける犯罪発生件数(2013年国家警察庁犯罪統計)

犯罪の内容	2010年	2011年	2012年
窃盗	4,920	4,203	4,147
空き巣	2,866	1,900	1,374
強盗	42	42	50
強姦	98	128	122
暴行 (うち殺人)	1,175 2	1,078 3	1,142 1
麻薬違反	1,538	1,819	2,049
合計	10,638	9,170	8,884

3 防犯のための具体的注意事項

(1) 住居

ア 選択

- (ア) 出入口を含む開口部分の施錠がしっかりした住宅を選ぶ。
- (イ) 主な出入口が人目につく場所にある住宅を選ぶ。
- (ウ) 集合住宅の場合は、1階や地階は避ける。
- (エ) ガレージ併設の一戸建住宅では、ガレージから住宅への出入口を確認する。

イ 警備方法

- (ア) 鍵を紛失した場合は、新しいシリンダーに交換する。
- (イ) 施錠を二重にする。
- (ウ) 周囲に住宅が少ない地域の一戸建では、警備機器等を併用する。
- (エ) 長期間にわたり家を留守にする場合は、警備会社への委託も検討する（巡回警備やアラームの設置、月単位での契約が可能）。

(2) 外出時

ア 置き引き

- (ア) 荷物を置いたままにして、その場を離れない。カバンは肩掛けがついたものを利用し、必ず腕を通しておく。
- (イ) レストラン等では、貴重品の入ったハンドバッグやカバンを、テーブルやいすに置いたまま席をはずさない。
- (ウ) 見知らぬ人から「落とし物ですよ」などと話しかけられ、視線をそらしたスキに、もう一人が荷物を持ち去るケースがあるので注意する。
- (エ) カバンは常に体の前で持ち、手を添えておく。ズボンの後ろポケットやバッグの外側ポケットなど、人目につくところに財布や貴重品を入れない。

(オ) 回りに人がいないと感じる郊外でも、貴重品の入ったバッグなどは自分の目の届く範囲に置いておく。

イ 窃盗

(ア) 年末年始、イースター、夏休みなどの期間を利用して長期にわたる旅行をする場合、週末や祝祭日で家を留守にする場合、短時間の買い物に出かける場合、就寝の前などには、自宅の出入口全てについて、必ず鍵のかけ忘れがないかどうかを点検する習慣をつける。

(イ) 夜間に短時間留守にする場合には、屋内の電灯、ラジオ、テレビ等をつけたままにしておく。

(ウ) 日常の買物など、外出の行動パターンを一定にしない。決まった時間に留守にしていることや、家が不在であることが外見から分かってしまうようなスキをつくると狙われやすいので注意する。

(エ) 2階の窓や一見して侵入不可能と思われる場所でも、足場がないか確認して、確実に鍵を閉める。

ウ 強盗

近年、銀行や深夜営業のコンビニエンスストアでの強盗事件が発生しているので、身の回りに気をつける。

エ 車上ねらい

(ア) 自動車にアラーム式盗難防止装置の設置を検討する。

(イ) 人目につかない暗い場所に駐車しない。また、人目につきやすい場所でも、深夜の長時間にわたる路上駐車はしない。

(ウ) 短時間の駐車でも、忘れずにドアロックをする。

(エ) 犯人が物を盗む誘惑にかられることになるので、駐車中の車外から見えるようなかたちで、車内に物を放置しない。

オ 傷害、暴行、夜間の行動

(イ) 酔った上での口論は避ける。

(ロ) 深夜に外出や帰宅せざるをえない場合は、交通量の多い明るい道路を選び、暗がりの一人歩きは避ける。

(ハ) 見知らぬ人が誘う車には同乗せず、タクシーを利用する。

(ニ) 週末のディスコ等では、薬物が混入されないよう飲み物の管理に気をつける。

(3) 生活

ア 普段から近所の人と協力関係を持ち、長期にわたり留守にする時は、防犯に注意を払ってもらおう。

イ 郵便受けに新聞や郵便物が溜まっていると空き巣に狙われやすいので、不在期間中の新聞購読を止める手続きをしたり、知人に定期的に郵便物を室内に取り込んでもらうよう依頼しておく。

ウ 鍵の所有数を把握しておき、紛失した場合は、ドアのシリンダーを交換するなどの対応を心がける。

エ 家族が通常帰宅する時間を把握しておく。

4 交通事情と事故対策

首都圏の住宅地域が郊外に広がっていることもあり、首都中心部に繋がる幹線道路では朝夕の交通量が多く、渋滞もみられます。交通違反総数は2009年以降減少傾向にあり、2012年の違反総数は2009年から2011年における違反総数の平均を下回ったものの、2011年の違反総数よりも多くなっています。違反内容は、スピード違反が総数の約70%を占め、飲酒運転や麻薬を使用しての運転などによる違反もみられます。また、2012年には9名の命が交通事故で奪われています。冬の時期は暗い時間が長く、天候の変化が激しいため、運転には注意を払いますが、日照時間が長く明るい夏の時期には、スピードを出しすぎる傾向があるようです。

最近の傾向として、速度制限を超えた運転や方向指示器を示さないまま進路を変更する運転などが目立っています。また、ロータリ内での左側（内側）優先や、信号のない十字路での右側優先など、日本人には不慣れな交通規則もあるので、十分な注意が必要です。

(1) 国内における交通事故発生の傾向（2012年内務省交通局年報）

- ア 季節：発生件数は1月が最も多かった。
- イ 曜日と時間帯：金曜日の夕方4時から5時に事故が多く発生した。
- ウ 地域：発生件数は首都圏に集中し、特にレイキャビク市内が最も多かった。
死亡事故は郊外が多かった。
- エ 年齢：免許を取得して間もない17歳～19歳による事故が多かった。
- オ 性別：男性による事故が約3分の2を占めた。
- カ 死亡・重傷者：7月が最も多かった。

(2) 交通事故対策

- ア 自家用車の定期点検整備を怠らない。
- イ タイヤの交換を怠らない。
- ウ 幹線道路の交差点では、信号の変わり目に注意する。
- エ 突然の事態にも停止できるよう走行速度を控える。
- オ 事故が起きた場合に備え、自動車保険会社、警察、救急車の連絡先を確かめておく。
- カ 事故が起きた場合、可能であれば、周辺にいる目撃者に証人になってもらうよう氏名や電話番号を尋ねておく。
- キ ロータリ内の左側（内側）優先や信号のない交差点での右側優先の交通規則を十分理解しておく。
- ク 郊外に出かける際は、携帯電話などの通信機器を忘れない。
- ケ 天候の変化に注意し、特に積雪や霧の発生時に無理な走行はしない。
- コ 高速で走行中、車間距離を詰めて追従する車両がある場合、路肩に車両を寄せ、後続車をやりすごすようにする。
- サ 未舗装の道路では急停車を避け、路肩に寄りすぎて脱輪しないように注意する。

5. 習慣の違いによるトラブル

アイスランドにおいては、親権を持つ親であっても、他方の親権者の同意を得ずに子の居所を移動させること（親が日本へ帰国する際に子を同行させる場合を含む。）は、子を誘拐する行為として重大な犯罪となる可能性があります。実際に、他の国では、結婚生活を営んでいた国への再入国や、当該国との刑事司法上の共助関係を有する第三国への入国の際に、子を誘拐した犯罪被疑者として日本人が逮捕される事案も生じていますので、ご注意ください。

6. テロ・誘拐対策

アイスランド国内においてテロや誘拐が発生する可能性は非常に少ないとはいえ、「Ⅱ 防犯の手引き」で述べた「海外で安全に暮らすための3か条」を基本に、自らの安全について常に配慮することが必要です。テロ発生や日本人誘拐の危険性が疑われる地域への渡航は控えるとともに、常に最新の情報を入手し、身の回りへの気配りを怠らないようにしましょう。

7. 緊急連絡先

(1) 何か緊急事態が発生した場合、隣人や近くの人に助けを求めることは当然のことですが、以下に示す「緊急時」の電話番号へすぐに通報します。

ア 警察 112
イ 消防 112
ウ 救急車 112

(2) 当大使館の連絡先電話番号及び住所は以下のとおりです。

ア 代表 510-8600
※執務時間外、休日・祝祭日は留守番電話機能又は緊急用携帯電話への転送で対応
イ 住所 Laugavegur (ロイガベール) 182, 105 Reykjavik

(3) その他

ア 病院(救急) 543-1000
イ 出入国管理局 510-5400
ウ 観光局 535-5500 (レイキャビク)
535-5510 (アクレイリ)

(4) 緊急時のアイスランド語表現

ア 助けて! = ヒャウルプ!
イ 救急車 = シュクラビル
ウ 交通事故 = ビルスリース
エ 火事だ! = エルドウル!
オ 警察 = ログレグラ

カ 住所 = ヘイミリスファンング

III 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

1. 平素の準備と心構え

(1) 連絡体制の整備

ア 緊急事態はいつ起こるとも限りません。予めそのような場合の家族間、会社・団体内での緊急連絡方法を決めておき、お互いに居所が分かるように心がけてください。また、在留届の提出、在留届の記載事項変更、緊急連絡網の電話番号変更、居住地を長期離れる場合等の届出を励行してください。

イ 緊急事態が発生した際には、当大使館より緊急連絡先等や在留届の連絡先に基づいて情報を提供します。なお、電話回線などが使用できなくなる場合には、NHK海外放送により必要な連絡を行うこともあり得ます。短波放送受信可能なラジオ（電池の準備もお忘れなく）の準備も考慮に入れて下さい。

(2) 避難場所

緊急事態が発生した際には、常にその状況の進展に注意を払い、情報を収集し、危険な場所に近づかないことを心がけてください。万が一緊急事態に巻き込まれそうになった場合の一時避難場所については、自分が何処にいるか（勤務先、通勤途上、自宅など）、自分がどのような事態に巻き込まれそうかなど、幾つかのケースを予め想定して、各自で検討しておいてください。（外部との連絡可能な場所が望ましい。）

(3) 携行品等、非常用物資の準備

ア 旅券、現金、貴金属等最低限必要なものは、直ちに持ち出せるよう予めまとめて保管しておいてください。

イ 緊急時には一定期間自宅での待機を勧告することもありますので、非常用食糧、医薬品、燃料等を最低限7～10日分準備しておくことをお勧めします。

ウ 準備しておくべきもののチェックリストは巻末のとおりです。

2. 緊急時の行動

(1) 基本的心構え

当国の治安は非常によいものの、自然災害も含めた緊急事態の発生を予測することは非常に難しいことです。情報収集を中心に、不測の事態が発生した場合に、的確に対応できる心構えを常に持ち続けることが重要です。

(2) 情勢の把握

ア 緊急事態が発生、または発生する恐れのある場合に、当大使館は邦人保護の万全を期すため、所要の情報の収集、情勢判断及び対策の策定を行い、緊急連絡網や在留届の連絡先などに基づいて、在留邦人の方々に随時通報いたします。

平静を保ち、流言蜚語に惑わされたり、群集心理に流されたりすることのないよう注意してください。

イ 緊急事態が発生した際には、当地の報道、衛星放送テレビなどを視聴し、各自で情報収集を心がけてください。

(ア) NHK国際放送「ラジオ日本」

<http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radio/program/index.html>

短波ラジオ：

9620KHz, 15290KHz, 15445KHz (ドイツ中継) 等

(イ) 国内のラジオ放送例：

(a) 国営ラジオ(RÚV)RÁS1

FM(92.4/93.5KHz)

<http://www.ruv.is/ras1>

(b) 国営ラジオ(RÚV)RÁS2

FM(90.1KHz)

<http://www.ruv.is/ras2>

(ウ) TV放送：国営テレビ(RÚV)，チャンネル2(STÖÐ2)，CNN，BBCなど。

(3) 当大使館への通報等

ア 現場の状況を知らせる必要があると思われるものは、随時、当大使館に通報をお願いします。他の日本人の方々への貴重な情報となります。

イ 自分や自分の家族または他の日本人の生命、身体、財産に危害が及んだ、あるいは及ぶ恐れがあるときは、迅速かつ具体的にその状況を当大使館に通報してください。

ウ 緊急事態発生の際には、お互いに助け合って対応に当たることも必要となります。当大使館より在留邦人の方々に対する種々のご協力をお願いすることもございますので、宜しくお願いいたします。

IV 結語

「安全の手引き」として作成したこの資料は、邦人の皆様に役立つことを最優先に作成されています。治安のよいアイスランドとはいえ、日常生活で犯罪や事故被害にあう可能性がゼロとはいえません。また、自然災害の発生等による緊急避難が必要になることも想定した安全対策が必要です。この手引きは、毎年定期的な改訂を実施していますが、できるだけ新しい情報を皆様に提供することを心がけています。不幸にして犯罪に巻き込まれたり、日常生活で困ったことが起きたら、迷わず当大使館へご相談下さい。

緊急事態に備えてのチェック・リスト『在留邦人配布用』

1 旅券

(1) 旅券については、6か月以上の残存有効期間があることを常に確認しておいてください(6か月以下の場合には当館に旅券切替発給を申請してください)。

(2) 旅券の最終頁の「所持人記載欄」は漏れなく記載しておいてください。特に、下段に血液型(blood type)につき記入しておくとうりです。

(3) 旅券と併せ、滞在国の外国人登録証明書、滞在許可証等はいつでも持ち出せる状態にしておいてください。なお、出国や再入国に係る許可は常に有効な状態としておくことが必要です。

2 現金，貴金属，貯金通帳等の有価証券，クレジット・カード

これらのものも，緊急時には旅券とともにすぐ持ち出せるよう保管しておいてください。現金は家族全員が10日間程度生活できる外貨及び当座必要な現地通貨を予め用意しておくことをお勧めします（ただし，当国の場合，トラベラーズチェック等を含む10,000ユーロを超える通貨持ち出しは出国時の税関で届出が必要）。

3 自動車等の整備

- (1) 自動車をお持ちの方は常時整備しておくよう心掛けてください。
- (2) 燃料は十分入れておくようにしてください。
- (3) 車内には，懐中電灯，地図，ティッシュ等を常備してください。
- (4) なお，自動車を持っていない方は，近くに住む自動車を持っている人と平素から連絡を取り，必要な場合に同乗できるよう相談しておいてください。

4 携行品の準備

避難場所への移動を必要とする事態に備え，上記1～3のほか次の携行品を常備し，すぐに持ち出せるようにしてください。なお，退避時の飛行機内への持ち込み制限も考慮し，携行品は20kg程度にまとめておくことをお勧めします（自衛隊機等を含め，機種によっては搭乗前に10kg程度にまとめることを求められる場合もあります）。

- (1) 衣類・着替え（長袖・長ズボンが賢明。行動に便利で，殊更人目を引くような華美でないもの，麻，綿等吸湿性，耐暑性に富む素材が望ましい。また，所在国・地域や季節に応じ防寒着または毛布類を持参することが望ましい。）
- (2) 履き物（行動に便利で靴底の厚い頑丈なもの）
- (3) 洗面用具（タオル，歯磨きセット，石鹸等）
- (4) 非常用食料等：しばらく自宅待機となる場合も想定して，米，調味料，缶詰類，インスタント食品，粉ミルク等の保存食及びミネラルウォーターを，家族全員が10日間程度生活できる量を準備しておいてください。一時避難のため自宅から他の場所へ避難する際には，この中からインスタント食品，缶詰類，粉ミルク，ミネラルウォーターを携行するようにしてください（3日分程度以上）。
- (5) 医薬品：家庭用常備薬の他，常用薬（必要に応じて医師の薬剤証明書（英文）も用意），救急キット（外傷薬，消毒薬，衛生綿，包帯，絆創膏など），マスク等。
- (6) ラジオ：FM放送やNHK国際放送を通じ，安全情報を伝達する場合があります。FM放送受信可能で，NHK海外放送（ラジオ・ジャパン），BBC，VOA等の短波放送が受信可能な電池使用のラジオ受信機が理想的（電池の予備も忘れないようにしてください。）
- (7) その他：懐中電灯，予備の強力バッテリー，ライター，ローソク，マッチ，ナイフ，缶切り，栓抜き，紙製の食器，割り箸，固形燃料，簡単な炊事用具，可能ならヘルメット，防災頭巾（応急的に椅子に敷くクッションでも可）等